



Mittelfranken

5. ミッテルフランケン

ミッテルフランケン行政管区ハイライト

ミッテルフランケンの行政管区の府中は、アンスバハです。同行政管区で人口が最も多いのはニュルンベルクの約520万人で、その次はフルト、エアランゲンと続きます。ニュルンベルクの町は中世の城壁に囲まれており、16世紀半ばから毎年開催されている「ニュルンベルクのクリスマスマーケット (Christkindlesmarkt)」は世界的に有名です。ニュルンベルクでの名物である「ニュルンベルク・ロストブラートヴルスト (Nürnberger Rostbratwurst)」は、EU法原産地名産保護制度により2003年から保護されていて、「レープクーヘン」はフランケンの修道僧が14世紀に作り始めました。

ミッテルフランケンには、世界的に知られている長い歴史と伝統を誇る会社が数多くあるのが特徴です。例えば、シュタインには1761年設立のファーマーカステルAGの本社があります。また、スポーツ用品メーカーのAdidas AGとPuma SEはヘルツォーゲンアウラハに本社を置いています。両社の創始者である、アドルフ・ダスラーとルドルフ・ダスラーは兄弟で、ヘルツォーゲンアウラハの靴職人の息子として生まれました。そして、ツィルンドルフにはプレイモービルの製造元のゲオブラ・ブランドシュテーター社の本社があり、その近くには子供から大人まで楽しめるプレイモービルのFun Parkがあります。

ミッテルフランケン行政管区における日本

在ミュンヘン日本国総領事館によると現在ニュルンベルクの邦人数は、約330人、エアランゲンは、約200名です。ニュルンベルク地域には、様々な日本企業が拠点を設けており、Tadano Faun GmbH (Lauf) やSumitomo (SHI) Demag Plastics Machinery GmbH (Schwaig bei Nürnberg)、Sumita Optical Glass Europe GmbH (Nürnberg)、DOWA HD Europe GmbH (Nürnberg)、Ishigaki Europe GmbH (Nürnberg) などが進出企業例として挙げられます。ニュルンベルクには1988年にオープンした鉄板焼き料理店「Japan Restaurant Ishihara」が居を構えています。1994年には、ニュルンベルク商工会議所のイニシアティブにより北バイエルン地域で日本とドイツの交流を深めるため、北バイエルン独日協会が設立されました。それ以来、北バイエルンの独日協会の努力により多種多様な講演や文化交流が行われています。現在ニュルンベルクでは、日本庭園の造園が予定されています。ノイシュタット・アン・デア・アイシュは1997年以来滋賀県日野町と、ローテンブルク・オブ・デア・タウバーは、2001年以来愛媛県内子町と姉妹都市協定を結んでいます。ローテンブルクには、日本でも馴染みのクリスマスギフトで有名なKäthe Wohlfahrtの拠点があります。エアランゲン・ニュルンベルク大学は、大阪教育大学や関西学院大学や東京工業大学など合計17の大学と、そしてニュルンベルク工科大学は、山梨大学など計4つの大学と交流しています。



Unterfranken

6. ウンターフランケン

ウンターフランケン行政管区ハイライト

ウンターフランケン行政管区の府省であるヴェルツブルクは、約12万8000人の人々が暮らすバイエルン州で6番目に人口が多い都市で、美しいワイン畑が広がる町です。また、「ユリウス・マクシミリアン大学」を始めとした大学が三つもある関係で、学生街の雰囲気が高いです。ヴェルツブルクゆかりの著名人としては、1901年に初めてノーベル物理学賞を受賞したヴィルヘルム・コンラート・レントゲン教授が挙げられ、現在でもレントゲン博物館には、多くの資料が展示されています。メイン橋の上でマリエンベルク要塞やメイン川を眺めながらフランケンワイン、シルヴァナーなどのワインが試飲ができる「Brückenschoppen」は、必見の観光スポットの一つです。

さらにウンターフランケンにあるバート・キッシンゲン市は、「シシー」の愛称で有名なオーストリア皇后エリザベートも訪れたことがある由緒正しい温泉保養地です。現在、ヨーロッパ各地の有名な保養地と共に「Great Spas of Europe」を形成して、ユネスコ世界文化遺産への登録を目指しています。アシャッフエンブルクには、バイエルン王ルードヴィヒ1世が1848年に建築家のフリードリッヒ・フォン・ゲルトナーに古代ローマ時代の屋敷を忠実に再現させた「Pompejanum」という観光スポットがあります。

ウンターフランケンには、自動車サプライヤーのBroseや印刷機械メーカーのKoenig & Bauer社をはじめとしたセンサーやライフサイエンス・環境、医療器具やITC関連企業にとっても、経済立地拠点として魅力的です。最近ではスタートアップ企業の支援にも力を入れていて、2018年にヴェルツブルクでデジタル・イノベーション・センター (ZDI) が開設されました。ZDIの「Cube」というオフィスでは、革新的なスタートアップ企業に対して起業をする際に必要なアドバイスを提供しています。さらにアシャッフエンブルク市は、フランクフルト空港へのアクセスの良さ(車で約30分)や営業税がフランクフルト市と比べて低いことからグローバル・プレーヤーの欧州拠点として大変興味深い立地です。

ウンターフランケン行政管区における日本

ヴェルツブルクと滋賀県大津市との間には、1979年に姉妹都市協定が結ばれ、それを記念して1990年に市内の2カ所に日本庭園が造られました。2013年には、長崎市と同市との間に友好関係提携が結ばれました。シーボルト博物館では、シーボルトが当時日本で収集した工芸品の数々が展示されていて、館内には茶室もあります。また、シーボルト協会は演奏会や講演会を開催し、日本の芸術と文化を紹介しています。また、ウンターフランケンにある大学は、数多くの日本の大学と交流をしています。ヴェルツブルク大学は、大阪産業大学、上智大学、長崎大学、中央大学、金沢大学、聖心女子大学、立命大学、ヴェルツブルク音楽大学は北海道教育大学、ヴェルツブルク・シュヴァインフルト応用学術専門大学は東京藝術大学、アシャッフエンブルク工科大学は広島修道大学と北見工業大学と交流をしています。



Schwaben

7. シュヴァーベン

シュヴァーベン行政管区ハイライト

バイエルン西部で第2位の人口を誇るシュヴァーベン行政管区の中心、アウクスブルクには約30万の人々が暮らしています。アウクスブルクの都市名は、ローマ帝国アウグストス皇帝にちなんで「アウグスタ・ヴィンデリコルム」と名付けられました。その他、アウクスブルクは、15-16世紀の間、フッガー一家がヴェルザー一家などの影響で金融都市として繁栄し、なかでもフッガー一家が低所得者のために建設した集合住宅の「フッガーライ」が有名です。

その他の代表的な観光名所としては、フュッセン近くのノイシュヴァンシュタイン城が挙げられます。またアイヒャッハには、地元の人達からオーストリア皇后エリザベートの名にちなんで「シシー城」と呼ばれているウンターヴィッテルスバッハ水城があり、現在はシシー博物館になっています。アウクスブルクには、産業用ロボットメーカーでお馴染みのKUKA AGの拠点やKUMAS (環境コンピテンス・センター) などの環境クラスターがあります。

シュヴァーベン行政管区における日本

シュヴァーベンにも日本との繋がりがあります。1959年に旧ヤンマーディーゼル株式会社 (現ヤンマーホールディングス株式会社) の初代社長の主導により、アウクスブルクは長浜市 (滋賀県) と尼崎市 (兵庫県) との間で姉妹都市協定を結びました。1974年にはシュタットベルゲンと福島県が、1995年にはフュッセンと沼田市 (群馬県) が友好関係提携を結びました。そして2015年には、姫路城の保存修理工事の終了を機に、ノイシュヴァンシュタイン城との観光友好交流協定が結ばれました。アウクスブルク大学には、日本語講座があり、神奈川大学、大阪大学、明治大学、滋賀県立大学、早稲田大学、関西学院大学、名城大学と交流しています。ミュンヘン日本国総領事館によると、アウクスブルクには約230人の日本人が住んでいます。1997年には、アウクスブルク市とシュヴァーベン行政区域内における日独の相互理解、及び両国間の親善を目的として独日協会アウクスブルク・シュヴァーベンが設立されました。この協会には現在、約100名のメンバーが在籍。植物園で毎年春祭りが行われ、レストラン万葉では料理やカラオケの夕べも開催しています。シュヴァーベンにある日本企業の代表としては、ホンカワアルパインAG (アウクスブルク) などがあげられます。

ミュンヘンでのお問い合わせ先

Invest in Bavaria
山口フンベルト香織 (シニア・マネジャー)
Kaori Yamaguchi-Humpert

Prinzregentenstr. 22, 80538 München
Tel.: +49 89 24210 7503
Fax: +49 89 24210 7557
kyh@invest-in-bavaria.com

日本でのお問い合わせ先

Dr. Christian Geltinger (代表)
田山野恵 (プロジェクト・マネジャー)
Dr. 持田侑宏 (顧問) / Dr. Yukou Mochida

バイエルン州駐日代表部
〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-11-1
オランダヒルズ森タワーRoP 801
Tel.: +81 3 6809 1416
Fax: +81 3 3433 1552
bayern@bayern-japan.org

The Business
Promotion Agency
of the State
of Bavaria



invest
in
bavaria

バイエルン州よりグラー スゴット (Grüß Gott) こんにちは!

インベスト・イン・ババリアはバイエルン州経済省の企業誘致部です。貴社のバイエルン州への進出および拡大を無料・機密厳守で応援いたします。また、バイエルン州への進出後も継続的に皆様の窓口としてご利用いただけます。ヨーロッパでの立地候補をお探ですか?それでしたら、インベスト・イン・ババリアにバイエルン州の魅力について「バイエルン州における日本」にスポットをあててご紹介させていただきます。





Oberbayern

1. オーバーバイエルン

オーバーバイエルン行政管区ハイライト

バイエルン州は7つの行政管区に分かれています。ミュンヘン市は、バイエルン州の州都であり、オーバーバイエルン行政管区の府省でもあります。ミュンヘンには、グローバルプレイヤーであるBMWなどのヘッドクォーターが数多くあり、サッカーチームのFCバイエルン・ミュンヘンの活躍の拠点です。

バイエルン州全体には、約84000人もの日本人が住んでおり、日系企業は約440社進出しています。その中で、もっとも日本人の数が多いのがバイエルン州の州都であるミュンヘン市で、その数は約5000人にもぼります。ミュンヘンには「ミュンヘン日本人国際学校」や「ミュンヘン日本語補習授業校」、「ミュンヘン日本人幼稚園」や幼児向けの「ぼっぼの会」があります。さらに「京進」や「駿台」のような学習塾も充実していて、オスト駅のそばには「KUMON」もあります。

多くの企業がミュンヘンを選んだ最大の理由として、「顧客との距離の近さ」を挙げます。さらにミュンヘン国際空港からは全日空とルフトハンザの直行便が毎日羽田空港行が2便、関西国際空港へは1便出ている関係から「交通アクセスの良さ」も利点として捉えられています。そして生活面では、「ドイツー安全な町であること」と「生活の質の高さ」が評価されています。

オーバーバイエルン行政管区における日本

イギリス庭園に立つ日本式の茶室「閑松庵」は、ミュンヘンで日本を代表するいくつかの建築物の一つです。この茶室は、1972年にミュンヘン・札幌間で姉妹都市の提携が結ばれ、その記念として裏千家からバイエルン州に寄贈されました。毎年7月には、在ミュンヘン日本国総領事館、バイエルン独日協会、ミュンヘン日本人会の共催で日本祭りが開催されます。

ミュンヘン南西部にあるWestparkという公園に日本庭園 (Japan Garten) があります。石灯笼や池のあるこの美しい庭園は、1983年に国際ガーデン展示会がWestparkで開催されるにあたって札幌市のご厚意により、札幌市の庭師によって造られました。

ミュンヘンの銀座通りと言われているマキシミリアン通り42番地にも日本のスポットが「五つの大陸博物館(Museum der Fünf Kontinente)」にあります。これは、バイエルン・ヴェルツブルク出身の医者シーボルトが日本で収集した工芸品や日用品をコレクションした博物館です。

オーバーバイエルン行政管区内では、ミュンヘンと札幌市のみが姉妹都市提携を行っているのではなく、1987年にヴォルフラーツハウゼン市は埼玉県入間市と姉妹都市になりました。入間市はヴォルフラーツハウゼン建都1000年記念に「友好日本庭園」を町に寄付しました。

2008年には、ローゼンハイム市と千葉県・市川市が姉妹都市となり、ローゼンハイムでは毎年「Japan Wirtschaftstag」が開催されます。



Niederbayern

2. ニーダーバイエルン

ニーダーバイエルン行政管区ハイライト

バイエルン州一面積の広い行政管区ニーダーバイエルンの府省は、人口7万人が住むランツフートにあります。自然豊かなバイエルン州東部に位置するこの行政管区には、1970年に設立されたドイツで最も古い国立公園や800年以上前につくられ現在も大部分が当時のまま残っているトラウスニッツ城などの観光地があります。ランツフートでは、15世紀後半にポーランド王家から嫁いできたヤドヴィガ王女を迎え入れた様子を再現した「ランツフートの結婚式」が4年に一度行われます。パイエリッシュェ・ヴァルトにあるフラウエナウやシュピーゲラウでは、伝統的にガラス産業が盛んで、中でも有名なガラス工業は1521年に誕生したシュビゲラウ社や、1568年に創設した手吹きガラスのメーカーFreiherr von Poschingerです。ケールハイム・ヴェルテンブルクには、現在もビールの醸造をしている修道院の中で世界最古のヴェルテンブルク修道院があり、ご当地ビールは過去に何度もワールド・ビール・カップで世界一のデュンケル・ビール賞を獲得しました。院内にあるレストランでは、地ビールをお楽しみいただけます。ディンゴルフィングには、BMWのヨーロッパ最大の自動車工場があり、主にBMW3から8シリーズが生産されています。また、ディンゴルフィングにはBMW Groupの世界最大のスペアパーツの物流センターがあり、電子自動車のBMW Vision iNEXTは2021年から当地で製造される予定です。ニーダーバイエルンの府省には化学物質の安全性を管理するコンペテンスセンターが設けられているため、化学製品を扱う企業の立地候補としてもお勧めです。

ニーダーバイエルン行政管区における日本

日本とニーダーバイエルンでは長きにわたって都市間や大学間の交流が行われています。パッサウ大学は京都産業大学、武蔵大学、国際教養大学と交流しています。マインブルクと茨城県守谷市は1990年、パッサウと秋田県秋田市は1984年に姉妹都市協定を結びました。パッサウ独日協会は1983年に設立されて以来、数々のイベントを主催し、独日文化交流を促進してきました。その中でも秋田市により寄贈され、町の様々な箇所に植えられた500本の桜の木の下で行われるお花見会は毎年「お花のケーキ」などが持ち寄られ、多くの人々の交流の場となっています。



Oberpfalz

3. オーバープファルツ

オーバーファルツ行政管区ハイライト

オーバーファルツ行政管区の府省であるレーゲンスブルクには約15万の人々が暮らしており、ミュンヘン、ニュルンベルク、アウクスブルクに次いでバイエルン州で4番目に人口が多い都市です。旧市街にはドイツ最古の石橋（1135年着工）や500年以上の歴史を誇る世界一古いソーセージ屋(Wurstkuchl)などがあり、2006年以來ユネスコの世界遺産に登録されています。さらにオーバーファルツには、600以上もの古城があることから「バイエルンの古城地帯」とも呼ばれています。レーゲンスブルクの地名の由来は、ローマ帝国時代の皇帝、マルクス・アウレリウスが1世紀にローマ帝国の防衛拠点としてレーゲン川のに近くに「カストロ・レギーナ」を設けたことにあります。そのため、町のいたるところに「ポルタ・プレトリア門」などのローマ帝国時代の名残を見つけることができます。また、2019年春から「バイエルン州・歴史博物館 (Bayerisches Haus der Geschichte)」が開館されました。同地には大学が3校もあることから、企業にとっても経済立地拠点として魅力があります。例えば、BMWやインフィニオン・テクノロジーズなどの自動車・機械・電子・マイクロ電子産業分野等の企業が集積。さらには、バイエルン州経済省が支援している「デジタル起業イニシアティブ(DGO)」は、オーバープファルツ全域でのデジタル化の実現に向け、持続性のある起業文化を応援しています。その他、ノイトラウブリングにある包装・ボトル詰め機械のメーカーであるKrones AGが有名です。

アンベルクには、産業制御システムを導入した世界最先端の工場の1つ、シーメンスのスマートファクトリーがあります。2016年にはミュンヘン日本人会・法人会のご要望にお応えて当工場を訪問しました。

2018年末にはレーゲンスブルク中央駅・ミュンヘン空港間を一時間おきに約75分で結ぶエアポートエクスプレス(ÜFEX)が開通し、より便利になりました。

オーバーファルツ行政管区における日本

オーバーファルツのノイトラウブリングにはZippel GmbH (Sugino Group) が、ヴァイアーハンマーには、NSG Groupなどの日本企業が拠点を設けています。レーゲンスブルク大学では日本語の授業が行われており、レーゲンスブルク独日協会では週に一度シュタムティッシュなどを開催しています。ドイツ最古の民族劇・竜退治祭りで有名なFurth im Waldには、「Zwei Drachengarten der Freundschaft」という石庭があります。

Regensburg大学は、獨協大学や名古屋大学など計6校と大学間での交流があり、Regensburg大学では、日本語講座があります。東バイエルン・レーゲンスブルク工科専門大学は、東京理科大学と交流しています。



Oberfranken

4. オーバーフランケン

オーバーフランケン行政管区ハイライト

オーバーフランケン行政管区の府省は約17万人が暮らすパイロイトで、リヒャルド・ワーグナー音楽祭の開催地として毎年世界各国から多くの音楽愛好家が訪れます。さらに、ブランデンブルク・パイロイト辺境伯によって建てられたバロック様式の傑作とも呼ばれている「パイロイト辺境伯歌劇場」（2012年世界文化遺産登録）も見逃せません。1530年には、マルティン・ルターがフェステ・コーブルク城で籠城生活を強いられていた際、旧約聖書を訳したと伝えられています。経済面では、バンベルクのシェフラー社やフォルヒハイムにあるMedical Valleyのシーメンス社などが当地域の経済的發展に大きく貢献しています。特に機械・合成樹脂製造やガラス工業、テクニカル・テキスタイルやエレクトロニクス・オプティカル・医療技術分野などで活躍している「隠れたチャンピオン(Hidden Champions)」である中小企業は、オーバーフランケンの経済にとって欠かせない存在です。2018年7月にバイエルン州経済大臣が、ミュンヘン、ニュルンベルクに次いで、三つ目のインベスト・イン・ババリアのオフィスをホーフに開設したことでもわかるように、バイエルン州にとってこの地域がいかに重要なのかを表しています。

オーバーフランケン行政管区における日本

オーバーフランケンには、バンベルクにRakuten Deutschland GmbHなどの日系企業が進出しています。1995年に当市は、新潟県の長岡市と友好関係提携を結びました。在ミュンヘン日本国総領事館の情報によりますとオーバーフランケン行政管区内にある数々の大学は、多くの日本の大学と交流をしています。例えば、バンベルク大学は関西外国語大学、南山大学、明治大学などの計5つの大学と交流をしていて、パイロイト大学は学習院大学や北海道大学を始め、計13の日本の大学と交流しています。コーブルク応用専門大学は、奈良先端科学技術大学院大学とホーフ応用学術専門大学は、長崎大学と山口大学との大学交流があります。ホーエンベルク・アン・デア・エーゲルには、日本の実業家である山川氏が日本に紹介し、プラントに育て上げたことによって日本と深い縁があるシュニール織りのErnst Feiler GmbHの本社があります。その山川氏は、当地への恩返しとして総額350万ユーロを地域に寄付し、それにより2018年に老人ホームの建築が実現されました。敷地内には75本の桜が植えられ、子供から大人まで幅広く交流が深められる場を提供しています。バイエルン州政府は、山川氏の功績に深く感謝し、バイエルン州社会貢献者賞を贈りました。さらなる桜スポットである「フレンキシェ・シュヴァイツ(Fränkische Schweiz)」で白く咲き乱れる20万本ものサクランボの景色を眺めながらお花見気分を味わってみてはいかがでしょうか。